

# 概要報告

実施期日	7月29日(火) 【午後】
部会名	小学校 総則部会

テーマ 『 伝えあおう 心を! 』  
～聞く・話す活動に焦点をあてて～

## 提案概要

### 1 実践について

提案校では、教育目標を「よく考え、進んで学ぶ子」「思いやりをもち、協力し合う子」「自分を大切にする子(自・他を尊重する)」とし、めざす学校像の「すべての子どもが満足感・充実感・所属感のもてる学校、協力・連携・共感で創る学校」を掲げ、日々教育活動に取り組んでいる。また、学習指導要領の『言語活動の充実』を通して「思考力・判断力・表現力」を高めていくことをうけ、全職員で協議した。その結果、「めざす子どもの姿」を

◇他者の思いや考えを整理して受け止め、互いに理解しあう子

◇自分の思いや考えを整理し、互いに伝えあう子

とし、その姿を実現するため、言語を用いたコミュニケーションのとれる子をめざして実践研究を進めていった。

実践するにあたって、子どもの実態および実践校独自で作成した語彙力調査(低・中・高)結果を踏まえ、分析し、

・「聞く力」をはぐくむための帯単元の設定

・「聞く力」「話す力」をはぐくむ授業実践

という二つの柱をたてて研究を進めた。そして、三年間の研究で培った力が各教科・学校行事等を通じて生きる力をはぐくみ、実生活につなげることを目標に取り組んだ。

### 2 成果と課題

【成果】○「『聞く力』をはぐくむ帯単元」の実践を通して、他者の思いや考えを整理して受け止め、互いに理解し合おうとする力が身に付いてきた。

○「『聞く力』『話す力』をはぐくむ授業の研究」の実践を通して、自分の思いや考えを整理し、互いに伝えあおうとする意識の向上が見られた。

○指定研究推進委員会を中心に計画的に研究を進め、全職員が研究授業を行い、研究協議を重ねることによって学校全体で研究に取り組み、授業改善が見られた。

【課題】○「めざす子どもの姿」の一層の実現に向けて、すべての教育活動で言語活動の充実を図っていく必要がある。

## 質疑概要

Q: 指導事項の分割・分析はどのように行ったのか。

A: 横浜国立大学の高木まさき先生の御指導のもと、子どもの関心のあることから三つに分けて、次にそれぞれを更に細かく分けて・・・と目標の細分化を行っていた。

Q: 独自で作成した語彙力調査の内容はどういうものか。

A: 低・中・高学年ブロックで、全国学力・学習状況調査等を参考にして作った。問題を解いた後、それを分析して、何の力が足りないのかを話し合った。

Q: 「聞く力」は大事なこと。帯単元で実施していったが活動を重ねることで力はついていくのか。

A: 朝の「聞き取り学習」を隔週で、それと、「語り読み・読み聞かせ活動」、他の教科・教育活動でも実施している。

## 研究協議概要

8のグループに分かれて、協議の柱にそって研究会議を1時間ほど行った後、内容を全体に報告した。

◎協議の柱～言語活動を充実させる、年間を通した取組について

○提案校の実践をうけて出されたこと

- ・「聞く」からスタートさせていたことで、「話し合う」につながっていた。
- ・「書く」ことも必要になる。「読む」もどうなるのか。
- ・言語活動を充実させるための取組は目標ではなく手段である。6年間かけて育てていけばよい。
- ・低・中・高と系統だて、学校全体で取り組んでいたのが力がついたのだろう。
- ・「聞く」をしっかり身に付けさせることが大事。子どもの考える力にもつながる。
- ・自分の意見を遠慮せず安心して発表していけるクラスづくりが大事である。
- ・語彙力を付けさせるにはどうしたらよいか。
- ・「聞く」は訓練で身に付くが、「理解する」は心で聞くこと。課題設定の工夫で聞くこととつながる。

#### ○自校の言語活動を充実させる取組について出されたこと

- ・実践例として、朝のスピーチ、読み聞かせ、聞き方の手だての提示、少人数でのグループ活動、討論会、川柳や俳句づくり、学びを楽しむ授業づくり、日記、作文などが挙げられた。
- ・朝のスピーチでは、クラス全体でみんなが知っている話題を意識させて出させる。
- ・提案校では、「聞く」教材をファイリングしていつでも使えるようにしている。
- ・普段の生活の中で、一人ひとり話をさせる時間がとれないが、繰り返し意識してやっていく。
- ・聞いたことについて、メモをとって話す子どもの育成をめざしていく。
- ・研究発表でもあれば学校全体で取り組めるが、そうでないと難しい。
- ・学校全体として取り組むことは、難しい面もある。まずは、個々に実践をしていることを学年協同で進めていく。
- ・支援級では、通常級との交流を通して、できることを増やしていく。

### まとめ概要

- 提案校は、3年間研究し昨年発表を行った。
- 総則として、1つの教科にしぼらず、全体として学校として取り組んでいたか、その成果が出たかが大事。その意味で、6年間を見通して、みんなで取り組んでいたことがよかった。
- 「聞く」「話す」の中で、今の子どもが一番足りないものは「聞く」。ただ聞けばよいのではなく、どう理解したかが大切である。
- 「聞く」はどこまで聞けているか、日々の活動の中でわかっていく。言語活動は、日々繰り返しやっていかなければならない。
- 「聞く」「話す」の大切さを学校として取り組めたのはよかった。これからも、継続していくことが大切である。
- 言語活動の充実とは、手立て（手段）として、学習活動・各教科において、意図的に計画的に取り組んだ。
- 授業づくりについて、文科省からでている冊子も参考にしてください。
- 小学校では、2020年、学校指導要領が全面実施される。総則部会でもいずれ関係してくるだろう。
- グループ協議を見せていただいて、先生方が聞き方名人だったと感じた。
- 提案は、学校教育目標に向けて言語活動の充実が必要と考えて、実践した。
- 児童の実態を調査し、把握したことがポイント。また、学校全体でやったことがポイント。
- 系統立てて、継続的・計画的に行ったところに価値がある。
- 提案の中心となる「言語活動の充実」については、学習指導要領解説の第5節教育課程実施上の配慮事項 1 児童の言語環境の整備と言語活動の充実に記載されている。また、『言語環境の整備』については7項目が挙げられ、学校全体として取り組むことが求められている。そのひとつである「児童が集団の中で安心して話ができるような教師と児童、児童相互の好ましい関係を築く」については、研究発表公開を参観させていただいた際に、環境が整っていることを感じる事ができた。また、授業の中では、集中して自分の考えを伝える児童の姿も見ることができた。まさに実践の成果である。
- 提案校が発信したことを真摯に受け止めてくださって感謝する。